



表紙 素材礼讃 丹念

vol. 110 February 2026

contents_目次

- 05 YOKOGAO 拝見
- 06 ランチ情報
- 10 八戸えんぶりガイド 2026
- 13 タウンウォッチ
- 14 ショッピング情報
- 15 ビューティー情報
- 16 野菜歳時記
- 18 はちのへTAKEOUT Gourmet
- 20 食のまち・八戸応援食事券
- 21 歓送迎会情報
- 30 プレゼント & クーポン

ホームページ・インスタ公開中！

パソコン

<http://www.webwell.jp>

ケイタイ

<http://www.webwell.jp/mobile/>

インスタグラム

@hachinohe.well

南部の昔っ子
nanbu-no-mukashikko
久慈瑛子作

こわい刀のはなし

昔々、ある大きい家のば様が死んだずもな。四十九日も過ぎたので、ば様の物を息子夫婦が片付けたず。そしたら長持の中から刀が出てきたず。それもそれ、刀の鞘ごと荒縄でぐるぐると巻かれていたずもな。

息子夫婦はその刀をじ様に見せたず。そしたらじ様は「これ、俺の刀だ。若い時盗まれた刀だ。なんど、ば様が隠していただのが、それにしても荒縄をしばつて」と、云いながら荒縄をほどいてさやの中から出したら刀は少し錆びていだつたず。そこで刀屋さ持って行つて、刀のさびを取つてもらうことにしたず。

さて、息子が刀屋へ持つて行つたら、なんと主が「この刀は名刀だよ、売れば家一軒建つよ」と云つたず。さあ、息子は「我が家に家一軒も建つほどの宝物がある」と大喜び。何をしてかしても、最後にはこの刀を売つて始末が出来ると思つた息子はそれからだんだん気が緩み出して、

百姓仕事に精が出なくなつたず。そして、夜な夜な町さ出かけては酒を呑んだり女ごと遊んだり、と夫婦げんかが絶えなくなつてきただず。

そなある日、床の間に飾つておいた刀がなくなつていたずもな。息子が「親父、刀がなくなつてゐるが、どこがへ隠したのか？」と聞いたら「売つたよ」と云つたず。「なんど、あれは家一軒も建つほどの名刀だよ、なんばに売つたのだ？」「なんもあれは名刀ではない。魔刀だ。欲しい人に二束三文で売つてやつたと云つたず。もう、息子はガクッと力を落としてしまつたずもな。

そしたらじ様が「実はな…」と語り出したず。俺が若かつた頃、俺もお前と同じでこの名刀があればいつでも大きな金に変えることが出来ると、所帯を持つた時は遊び呆けたもんだ。ところが突然その刀を盗まれてしまつたのだ。今にして見れば嫁のばあさんが隠してしまつたとは気

が付かずに「刀を盗まれた、刀を盗まれた」と泣いたもんだ。

ところがその事件からしばらくたつたある日、風体の悪いじ様が寄つて来てな、俺に言つたんだ。「ほい、あん様よ、刀盗まれたつてそれば良がつた。あれは名刀じゃなくて魔刀だよ。あの刀は昔ある侍が妻にすると云つていた遊女にあげてしまつて、「一刀のもとにその遊女を切り捨てたんじや、その遊女の魂がそれを恨んでその刀の主の侍を破滅させてしまつたんだよ。それからと

いうもの、この刀を手にした者は次々に破滅したり家が没落したりと、散々目にあうことになつてしまつたんだ。ほら、このわしだつて

その名刀の魔力にかかる所だつたと反省したず。したども、あの魔刀を買った人の行く末はどうなるのだべ？

息子はその話を聞いて、もう少しで大棚の息子だつたんだよ、それが今まで、今は橋の下で暮らしているんだ。あの刀は名刀ではなく恨みのこもつた魔刀だ。盗まれて良かつたんだ。今頃盗んだ人に災いがあつていい

ことだつたず。
どつとはれ



挿絵／久慈 彩華